

平成25年度「みえの現場・すこいちゃんトーク」(尾鷲市)の概要

11月4日(月)に尾鷲市の梶賀コミュニティセンター「はらそ」で「みえの現場・すこいちゃんトーク」を開催しました。

当日は、「梶賀まちおこしの会」の皆さま11名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

【活動紹介】

○「梶賀まちおこしの会」概要

梶賀町の人口は、170人ほどしかない。見てのとりの小さい街である。外に誇れるものは、「ハラソまつり」と保存食の「あぶり」がある。味の良さから、市長もPRしてくれている。尾鷲の街中の人達も買い求めてくれる。市内はもとより県外へも「あぶり」のことが知れてきた。メジャーになりつつある。「ハラソまつり」でも販売し好評であった。地域行事に参加して、まちおこしを進めている会である。

Q、この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、やりがいを感じたことはありますか？また、自慢話はありませんか？

○ 2009年から活動を始め、「ハラソまつり」を盛り上げようと参画したことから始まった。県内の企業の社長からの助言もあり、「1億円産業になるんじゃないか。こんなに美味しいものを商品化できないか」とのアドバイスをいただき、市との協

力のもと、真空パックにできる機械を購入し、少しずつ広がっていった。半信半疑で始めたので最初は辛かった。しかし、5年がたち少しずつ収入が生まれ、色んな人が来てくれたり、他地域へ出かけたり出会いがある。東京駅への出品の話、市・県のアンテナショップの話などもその取組の1つである。収入は会の活動経費になったり、桜の木の植樹をおこなったり、桜まつりを行ったり、まちの人のために使ってもらえればいいと思っている。

- 10年まえに、一度NHKの番組でまちづくりで取り上げてもらったことがある。課題としては、魚の確保が問題である。今年も魚の確保に苦慮している。サバはご存じのように、あくる日まで置いておけない。生腐れする魚なので難しいし、また、商品の塩加減も難しいが少しでも課題を克服してこれからも頑張っていきたい。
- 技術を伝えることが大切である。体験によるものを受け継いでいきたい。試行錯誤の繰り返しである。串は特にむずかしい。
- 「あぶり」だけではなく、その串を削る人もお金になるので、良い経済効果がある。
- 活動を通して、市外、県外にPRに行ったり、視察に行き人に会えて、見聞が広がった。伝わるものが違うし話を始めて分ることもある。
- ここの地域以外の人には「あぶり」のことを99パーセントの人は知らなかったと思う。「あぶり」と聞くだけで、梶賀がイメージされるようになった。尾鷲市内の人は当然食べたことはあると思う。まだ、道半ばであるが「あぶり」と言えば梶賀が連想されるまでになってきた。
- お客さんの方から、季節になると、電話をいただく。「あぶり」も美味しいがさんまの味は日本一だと思っている。梶賀のさんまの丸干しを食べたら、他のさんまの丸干しは食べられない。自信がある。
- さんまの自慢をすると、干物ではたくさんの地域で作っているが、地形と気候も干物を作るにはとても適しているのだと思う。半日しか日が当たらないし、朝夕に吹く風により干物が美味しくなる。風と塩加減で尾鷲の梶賀のさんまは特に美味しい。作る腕もいいかもしれない。
- 「あぶり」の最盛期には朝1時や2時から起きて作業を行う。さんまも11時～3月まで作業を行っているので、毎日忙しい。その時期はほとんど寝ない時もある。干し作業も時間がかかる。作業も大変で1日仕事である。尾鷲市内の人も食べに来てくれる。嬉しいことである。
- この辺の漁業としては、定置網をやっており、尾鷲の港に水揚げをしている。伊勢エビ漁も盛んで、梶賀の人は働き者である。しかし、今年は伊勢エビが不漁であり、今年だけ特に良くない。隣まちの漁業関係者も同じことを言っている。

Q,この活動をより良くしていくために、こんな課題があるんだとか、行政からはこんなお手伝い（サポート）がしてほしいなどありませんか？

- 他の地域から人に来ていただくことが望まれる。この梶賀に来ていただける「仕組み」きっかけがあればよい。
- 今後どこも、漁業は後継者不足が一番の大問題になっている。尾鷲市でも対策をやっているが県でも後継者不足について何か対策をお願いしたい。
- 定住にいたらない理由があるはず。子どもの人口を1人でも増やしてほしい。尾

鷺熊野道路ができ、交通の便が良くなった。熊野や尾鷲市街地は通勤範囲になった。若い人が住んでみたい街、家賃も安いし、お得なところを売りにしてほしい。

- 県では森林税の導入を来年度、4月から実施すると認識している。そのことに関連しての話であるが、住民からも要望があることをお話させていただく。河川の問題で、具体的な河川名は北川の神社前のところで草が生い茂り汚いところがある。住民の方が清掃や伐採をやってきているが、この河川は県管理の河川であると市の担当者も言っているため対応をお願いしたい。
- 会を立ち上げて5年目であるが少しは前進している。「梶賀まちおこしの会」に昨年度から名前を変えてやっている。まちの人の意識、情報発信、意識改革をどうしたらいいのか。すんなり5年を迎えたわけではない。小さなまちを直視した指導・助言をどうしたらいいかわからないので教えてほしい。
- 愛知からここへ嫁いできて、他の地域から見ると、客観的に見られる。子育てをする環境は最高にいいところである。3人の子どもを産んで育てた。子どもが小さい時に海へ落ちるくらいが心配であったがそれ以上に少子化対策でも良い面がいっぱいある。おかずのやりとりがあったり、地域が家族のようであり子育てしやすい場所だと感じている。学校がなくなったことの問題はあるが子育てしやすいことは変わらない。

【知事の発言】

- 漁業の後継者問題について、来年度、県でも新しい担い手の協議会を立ち上げて検討を始める。
- 田舎の良いところはたくさんある。若者が定住するにはどうしたらいいか。まず、若者の働く場所の確保が必要であると思うが働く場所がない。どう作っていくかが課題であり、仕事が増えていく仕組みがヒントになる。現在、国の少子化タスクフォースの委員をしている。お母さんが孤立しないように地域の人が支えていけば出生率も高くなっている。都会のように母親が孤立する要素は梶賀にはないので県と市が連携して研究を進めていきたい。
- 立木の伐採や草木の伐採や堆積土砂の撤去は、当該年度の予算・県費でやることが多い。堆積土砂の量とか危険度などを勘案し、それぞれの建設事務で優先順位をつけながらやっている。優先順位が決まっていって、手がついていないのか。また、それを決める作業をもしていないのか。住民の皆さんにちゃんと報告するように関係部に伝える。市や国は早いのに、県は遅いと言われていてはいけない。市町と連携して情報共有する仕組みづくりをすることや、撤去箇所の優先度や実施方法をモデル的に県内3土木事務所（松阪・伊賀・尾鷲）で考えている。検討結果にもとづき試行、検証のうえ、平成26年度からは全建設事務所において実施することとしている。
- まちの人の意識、情報発信、意識改革で、とにかく前進していく。成功例の積み重ねでいい。今年は伊勢神宮の入込み客が1千百5万人に達しており、過去最多を記録したが遷宮に向けて、県ではあえて大きなイベントをしなかった。伊勢市から三重県から常に情報発信したおかげだなと思っている。マスコミ等が取り上げてくれるまで時間がかかるかも知れない。しかし、ある瞬間からぐわっと変わる時期が

くる。成功している事例は地道にインターネットで「あぶり」のこと「さんまの丸干し」のことを「どういいのか」などを書き込みPRしていくことが大事である。私もPRしていく。

- 私も兵庫で生まれて、東京・三重に住んでみて、三重のことがとても好きになっている。他地域の経験からその地域が見えてくるものがある。子育てしやすい梶賀で売りだすのもいいかもしれない。



【「梶賀まちおこしの会」の皆さんとは】

梶賀町の活性化のため 100 年以上も前から梶賀町に伝わる特産品による地域のまちおこしを図り、梶賀ならではの伝統の味の継承と、地域行事に参加することを目的とする皆さんです。